

会長に就任して

日本測量者連盟会長 村井俊治 2007. 9. 26



このたび平成 19 年 7 月 26 日付けで、前会長の中川一郎先生を引き継いで日本測量者連盟会長に就任しました村井俊治でございます。中川先生におかれましては、長年のご功績に感謝申し上げます。

日本測量者連盟（JFS）は、国際測量者連盟（FIG）の日本代表の立場であると同時に、わが国における測量技術者の活躍を国際的視野に立って支援する立場であると思います。この意味で創立以来、日本測量者連盟を支援して下さっている会員機関に心から感謝申し上げます。また役員の方々の多大なご支援に対してもお礼を申し上げます。

7 月 26 日に開催された役員会において議論したことや、その後の編集委員会で話題になったことなどを踏まえて、今後の日本測量者連盟のあり方について、会長としての抱負を語ることで挨拶といたしたいと思っております。

最初に私と FIG との係わりについて述べたいと思っております。1974 年 9 月にワシントンにおいて開催された FIG の総会において、日本が FIG に正会員として加盟を認められた席に、私は、日本代表であった大嶋太一先生および国際航業株式会社の平岡さんと一緒に立ち会いました。私が 34 歳の若さのときです。その後私は FIG より、国際写真測量学会（1980 年から国際写真測量・リモートセンシング学会 ISPRS に名称変更）に活躍の場を置いてきました。1988 年から 1992 年まで ISPRS の事務局長になったために、姉妹学会である FIG や国際地図学会（ICA）の役員との交流に勤めました。当然 FIG 総会・大会には、ISPRS 代表として参加したこともあります。1992 年から 1996 年まで ISPRS の会長になり、交流はさらに増えました。つまり、私は外から FIG を観察してきました。

残念ながらわが国には、測量学会は存在していませんので、JFS が測量の学術振興の任務を担っております。日本測量協会の関東支部で活躍なされている西村蹊二氏は、FIG が定めた Surveyor の定義を「応用測量論文集」の中で和訳してくださり、いかに国際的な意味での Surveyor が日本の測量技術者と異なるかを啓蒙してくれました。わが国での測量技術

者は、国際的には、単に Land Surveyor でしかないことが明らかになりました。国際的には土地家屋調査士、土地鑑定士、都市計画者なども Surveyor ですし、Surveyor の中には構造設計の積算を専門とする Quantity Surveyor も存在します。このような背景から、JFS は、国際的な意味での Surveying を担当する機関が会員になってくださっております。日本では、測量、地図、土地家屋調査、水路測量、測量教育などを代表する機関が会員となっております。

さて JFS の今後の運営をいかにしたらよいかを、先日の役員会議を通じて議論しました。第一の論点は、JFS がマンネリ化しており、会員が JFS に会費を納めているメリットや、国際的な視野での日本の責務について認識が薄れてきていることです。JFS 創立以来の会員の一機関が退会したことが大きなショックでした。反省として、経費のやりくりをして、役員が多くが FIG 大会に出来るだけ参加していただくよう出張旅費の配分を見直すことにしました。参加した方は、国際的な場で Surveying について議論している課題を認識していただくとともに、わが国において啓蒙や広報に勤めていただくよう政策を変更しました。

第二の論点は、従来の広報活動の手段を変更してより多くの方に FIG および JFS の活動を知っていただくよう手配したことです。従来、JFS ニュースレターをカラーのハードコピーの発行しておりました。ニュースレターを配布する機関や関係者が限定されますし、印刷経費も相当かかります。そこで、日本測量協会のホームページに JFS コーナーを設けていただき、誰でもがその活動を見られるようにすることにいたしました。つまり広報を電子化しました。これで経費節減できる分を出張旅費に回すことができます。

平成 19 年 8 月に「地理空間情報活用推進基本法」が施行され、「測量技術」は「地理空間情報科学」として大きく拡大発展する時代になりました。単に測定や計測するのみでなく、データを処理して分析し、さらに利活用する「空間情報コンサルティング」的な任務が新たに課せられたと思います。この意味で JFS は、新しい時代の要請に応え、さらに国際的には、受身で情報を FIG から収集するのみでなく、日本発の技術を世界に発信できるようモデルチェンジをしたいと思っております。

アジアでの日本の責務として、少なくとも近隣諸国との国際交流も進めたいと考えております。英語による研究発表会なども企画できればと夢を広げております。今後とも会員機関およびわが国の測量に関連する関係者の多大なご支援を切にお願いいたします。

最後に、長年 JFS の運営、取り分け JFS ニュースレターの発行に情熱的に取り組んでくださった石原正男氏に感謝申し上げます。